

みなとつぷ

Takanawa
Community News Magazine

高輪地区情報紙

2013年11月

Vol.22

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台



発行：高輪地区総合支所 協働推進課

編集：みなとつぷ編集室

CONTENTS

② 活かそう地域の 商店街

- 白金北里通り商店会

地域で活躍する 若者たち

- 留学生バディがつなぐ
国際交流の輪

わたしだって地域の 一員!

③ この街に この人あり

- 広告写真家
高井 哲朗さん



2012年「セルフポート
レート写真展」より

④⑤ 地域のおしあと

- 高輪地区の歴史的建造物

⑥ 暮らしプレイバック

読者のおすすめ料理

⑦ 私の自慢 地域の自慢

⑧ 区からのお知らせ

表紙写真

【タイトル】ダンス

【撮影者】高井 哲朗さん(白金台在住)



光陰矢の如し

今年も早いもので11月になりました。毎年この時期になると、しみじみと時の流れの速さを感じます。

12カ月のうちの11カ月目、確実に年の終わりに近づいている、しかし余り押し詰まった印象はない。7日には立冬を迎え暦の上では冬、しかし体感はまだまだ秋。「まだ11月」なのか? 「もう11月」なのか? …どちらとも言える月。私はこんな微妙な感じの月、11月が気に入っています。先日、今年の初めに立てた「二年の計」が、図らずも書類の中から出てきました。正月はさぞや気持ちが大きくなっていたでしょう。盛りだくさんです。

生来のなまけ者なので、手付かずのことが多いのですが、つだけ確実に出来ていることが見つかりました。今年の仕事のリタイアすることが決まっていたので、是非ともボランティア活動をやろうと決意していたのです。そんな中、4月から本紙『みなとつぷ』の編集に参加する機会に出会いました。

今まではボランティア活動とはまったく無縁の生活をしていたので、戸惑うこともありましたが、多くは新しい発見で楽しいことばかりです。自分の住んでいる町のこと、こんなに無知であったことを思い知らされたり、港区でやっている実に様々な事業・施策に出会うことができたり……。まさに新しい世界が広がった感じです。

「二年の計」の末尾には

① 新しいことにチャレンジすること!

② 途中であきらめないこと!

と、まぎれもなく自分の手で書きさされてきました。もう少し頑張れば達成できることがあるかも知れません。これを機会に今年の計を点検してみようと思います。

『十一月急ぎ手直し今年の計』

どうやら、年末まで忙しくなりそうです。

(担当/梶)



にぎやかな白金阿波踊り



佐藤さんは、港区唯一の白金阿波踊りを、もともとと発展させて多くの人が参加するイベントに盛り上げたそうです。エネルギーが豊富な商店会長が率いる白金北里通り商店会がレトロで躍動感のある新たな白金ブランドを創りだす予感がしました。

(担当/菅野、森、安藤)

白金北里通り商店会会長の佐藤伸弘さんにお話を伺いました。佐藤さんは44才で港区商店街連合会の中では最年少の会長です。

白金北里通り商店会は、北里研究所病院が目印の都道に沿った場所にあります。商店会は昭和30年代からあり、商店会の会員数は現在65店舗です。当初は物販店が多くありましたが、後継者難などから廃業するところも増えてきました。その代わりに飲食店などが新規に入ってきています。震災をまぬがれた昭和の初期の建物もあり、それを取り壊すのではなく雰囲気を生かした改装を行っている店舗

活かそう地域の商店街

白金北里通り商店会

レトロな街に白金阿波踊り

商店会の年中行事の目玉は、夏に開催される白金阿波踊りです。今年7月14日に行われ、およそ1500人もの人出がありました。にぎやかな鳴り物が響く中、この阿波踊りのために事前に練習をした街の人たちが浴衣を着て、独特のステップでこやかに踊る姿を、ホームページの動画で見ることができます。

もありません。昭和の匂いが漂う街並みがこの商店街には残っています。

佐藤さんは商店会のホームページに力をいれていて、1週間に1度の更新を目指しています。ホームページ (<http://www.shirokita-st.com/>) のトップページを覗くと子どもたちの明るい笑顔が目飛び込んできます。地域と一体となった活動の一つとして、近くの小学校の総合学習「子ども商店体験」に協力しました。洋菓子屋、おだんご屋、コンビニエンス・ストアなどで、子どもたちは商品を作ったり、パッケージや陳列、販売することを体験しました。買い物に来た皆さんは、子どもたちの初めての挑戦に笑顔を送っていました。



佐藤会長

地域で活躍する若者たち



留学生バディがつなぐ国際交流の輪

明治学院大学には世界各地から留学生が来ています。そんな彼らを学生たちがボランティアでサポートしているのをご存知ですか？今回は明治学院大学の留学生バディ制度をご紹介します。

バディとは、明治学院大学のキャンパスにおいて、アメリカ、イギリス、アジア諸国からの留学生が日本語を含む学業面・生活面で困ったり、悩んだりしているときに相談にのるサポーターです。

目に見える手助けだけではなく精神的な支えにもなっており、これを機に友情が育まれることも多いです。

活動内容は主に3つで、①言葉や文化の違いなどからくる留学生の質問に答えること、②銀行口座開設や携帯電話の契約などの補助、国内旅行の予定と一緒に立てるなどの手続きのサポート、③友人としての親交を深めることです。

大きなイベントは、留学生を迎える時のウェルカムパーティー、見送りする時のフェアウェルパーティーや日帰りの小旅行をする国際交流バスツアーです。他にも月に1度、留学生とバディの親睦を深めるためのイベントが企画されています。留学生に日本文化を知ってもらうための着付け、書道、華道、茶道などの体験イベントもあります。

こうした国際交流を通じて、世界各地に日本のファンが増えていくのですね。

(担当/内村、梶)

わたしだって地域の一員！



グラちゃん(左:ミニチュア・シュナウザー/メス/9歳)
ローデちゃん(右:ポーチュギーズ・ウォータードッグ/メス/2歳)
飼い主 青木さん(高輪1丁目在住)

自慢のペット募集中!
応募方法は6ページ参照

私がヴァイオリンを教えているので、2匹ともに音楽由来の名前を付けました。グラは、作曲家のグラスノフを短くして、ローデは、ヴァイオリンの教本の名前です。

グラはミニチュア・シュナウザーでは珍しい真っ黒な毛で、よく、ローデのお母さんと間違われます。原産はドイツで、ネズミを取る為の犬でした。動きがすばやくて頑丈、正方形に近い体格をしています。

ローデはポルトガル原産の漁労犬、漁師のサポート役として活躍していたポーチュギーズ・ウォータードッグという犬種です。友好的で忠実な気質で、オバマ大統領のご家庭でも飼わ

れています。

お姉さんのグラは、とても内気で、子犬の時から一日中ソファで寝ているか、お気に入りのクローゼットの中で寝ている、元気一杯のローデとは正反対。でも、海に出かけたりすれば、楽しそうに遊びます。2歳になったばかりのローデは、遊んでもらおうと私にずっとついてまわり、私がお風呂に入っている時など、ドアの外にお気に入りのおもちゃを並べて待っています。

性格は違う2匹ですが、喧嘩することなく仲良く暮らしています。

(担当/森、滝川)



この街にこの人あり

広告写真家 高井哲朗さん

よい写真を撮るには、撮るものに「ドキドキ」するんですよ

表紙の写真は、どうしてこんな不思議な写真になったのですか？ 種明かしをお願いします。

これは、普通のペットボトルに色のついた水を入れ、ねじまげて形を変えています。それを針金で吊り、上からシャワーをかけ、ストロボにカラーのフィルターをつけて1/6000秒の閃光時間で撮影しました。日常にあるありふれたものを写真で不思議な世界に変身させました。

写真に興味を持たれたのはいつごろからですか

初めて写真に興味を持ったのは、小学校2、3年生の頃、駄菓子屋などで売っていた日光写真でした。

白黒反転した絵が描かれた原画を印刷紙に重ねて日光にあて感光し絵が浮かび上がるといいます。中学2、3年生頃、友人のお父さんが暗室を持っていて、興味を覚えよく遊びにいきました。高校生の頃には、勉強部屋の半分を暗室にし、



写真の撮影、現像に没頭していました。

ご出身は岐阜ですが、その後、写真の勉強はどうされたのですか

大阪の写真専門学校で勉強しました。23才で東京に出て、六本木スタジオで働きました。その頃の六本木スタジオにはだれでも知っている有名写真家が何人かいて、当時の人気アイドルやタレントもモデルとして出入りしていました。ここで、スタジオマンとして「品物」と「人物」の撮影について、現場撮影で写真家の仕事の流れを学びました。しかし、忙しく1日3時間の睡眠で3カ月に1日しか休みをとれないこともありました。当時、写真家の助手は道具のように扱われていました。

独立されてからはどんなお仕事をしましたか

27才で独立しました。独立したての頃は、ほとんど仕事がなかったのですが、スタジオと先生とのつながりで次第に仕事が入るようになりました。また、広告

写真家協会のAP Awardをとつたのをきっかけに仕事が増えていきました。

大手化粧品メーカーでの仕事が多く、デパートの化粧品売り場に自分の写真が展示されていくのはとてもうれしく思いました。

生物の写真も多く撮られていますね

自然が多い岐阜の出身なので、小さい頃から生物に関心

があり、高校時代は科学部でした。蝶のさなぎ、昆虫の写真や植物の写真なども興味深くよく撮ります。

アマチュア写真家が良い写真を撮るにはどうしたらよいですか

写真を撮る対象に「ドキドキ」することです。愛情を持つたり、感動したりすることが大事です。それには、「対象に一步前に」近づくことです。対象の肌ざわり、におい、息づかいなどを感じなければ、よい写真になりません。あれも入れよう、これも入れようと欲張ってはいけません。狙う対象物に焦点を当てること。また、最初からトリミングを考

えていてはいけません。それと最高の場面だからとシャッターを切ったらその時はもう遅いのです。実はシャッターチャンスは最高の場面の「ちょっと前」にあるのです。最高の場面を事前に予測しながらシャッターを切ることを心がけてください。

高輪地区には永くお住まいですね

最初は六本木に住んでいましたが、その後白金、高輪、白金台と高輪地区に3年以上住んでいます。高輪地区は東京の中でも緑が多い方なので好きです。東京大学医学研究所の銀杏の木が魅力的です。自然教育園にもよく行きます。白金のスポーツクラブにも30年通って体を鍛えています。自転車も好きで地域をよく走っています。

高輪地区についてどう感じますか

白金1丁目にスタジオを構えて30年近くになりますが、この辺も随分変わ

りました。以前は町工場が多く庶民的で活気のある街でしたが、再開発ビルができたおたりしてお洒落な街になりました。きれいな街になったので、タバコの吸い殻、犬の落し物がとても気になります。みなさんで気をつけて、きれいな街を維持したいです。

このスタジオで東京写真研究倶楽部も行っていますが、どんなシステムですか

倶楽部の会員登録をすれば、有料ではありますが、誰でもこの写真スタジオを使うことができます。ライティング、撮影用具は自由に使えます。

写真を学ぶには写真家同士が遊びながら覚えるのが一番勉強になります。さらに、レタッチャー、メイク、スタイリスト、モデルが入りすれば、お互い情報交換もでき、進歩もします。このスタジオには、現在登録している方は300人おり、その中にいろいろな職種のプロ、アマチュアの方がいます。このインタビュウをしている間にも、写真家、モデル、メイクの方が出入りしていますね。

写真家として将来の夢はどんなことですか

日本のカメラは世界で最も優秀なカメラと言われていますが、写真家で世界に通用している方は少ないです。世界のトップレベルの写真家を育てるのが私の夢です。



スタジオの様子(編集メンバー撮影)

●取材を終えて

おだやかな話し方ですが時々、きらりきらりと面白い言葉が飛び出してくれます。トレーニングで鍛えた体形は年齢を感じさせません。地下にあるスタジオは入口に中庭とトップライトの部屋もあり、明るく現代的な感じがします。ライトスタンド、背景パネルなど撮影設備が整っており、何より、自由に創造的な雰囲気が出ています。

(担当/松島、安、安藤、滝川)

高井 哲朗 (たかいてつろう)【プロフィール】

- ・1978年 フリーランスとして活動を始める。
- ・1986年 高井写真研究所設立。
- ・第29回雑誌広告賞受賞 (AMEX Gold Card)、第7回ラハティポスターピエンナール第1位 (New Basics ポスター)、第22回広告部門APA賞受賞 (Uyeda jewelry 雑誌広告) など数々の賞を受賞。
- ・ベルギー、インド、スコットランド、デンマーク、東京で個展開催。
- ・現在、公益社団法人日本広告写真家協会副会長。

地域のおしあと

高輪地区の歴史的建造物

1

今号では、高輪地区の建造物の特集です。

地区内には、国指定のものから、ごく普通に使われていた建物まで、趣深いものが多くあります。あまりにたくさんなので、何号かに分けてご紹介しようと思います。

私たちは、日々貴重なものに囲まれて暮らしていることがお分かり頂けると思います。



1 高輪消防署二本榎出張所 高輪2-6-17

1933 (昭和8) 年竣工 鉄筋コンクリート造3階建て
設計 越智 操 (警視庁総監会計課管轄係)
東京都選定歴史的建造物

第一次世界大戦後の「ドイツ表現主義」というデザインで、曲線や曲面をモチーフにして力強く流れる躍動感のある設計が特徴。また、当時の消防署の特色をよく留めており、現在は使われていないが、「望楼」(火の見櫓)、出動時に消防車まで急降下するための「すべり棒」が残されている。高輪地区のシンボリック的存在であり、近代建築の遺産として、学術的にも文化的にも貴重な建物である。

出張所は、海拔25mの位置にあり、建築当時は周囲に高い建物が無く、東京湾を眼下に眺望できたことから「岸壁上の灯台」や、戦艦三笠にたとえられ、「海原を行く軍艦」等と評されていた。その外観から、出張所が船首、隣の警察署が船尾といわれたこともあった(右写真の上下)。

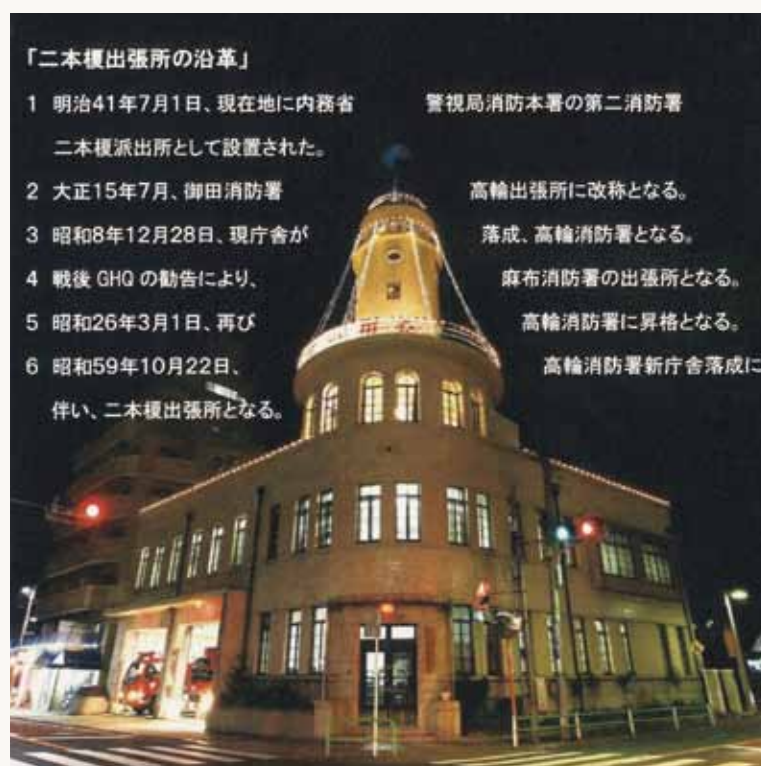
3.11の東日本大震災にもビクともせず、その後の耐震基準にも合格し、現在も立派にその役目を果たしている。



円形講堂の天井 (3階)



すべり棒



「二本榎出張所の沿革」
1 明治41年7月1日、現在地に内務省 警視庁消防本署の第二消防署 二本榎派出所として設置された。
2 大正15年7月、御田消防署 高輪出張所に改称となる。
3 昭和8年12月28日、現庁舎が 落成。高輪消防署となる。
4 戦後 GHQ の勧告により、 麻布消防署の出張所となる。
5 昭和26年3月1日、再び 高輪消防署に昇格となる。
6 昭和59年10月22日、 高輪消防署新庁舎落成に伴い、二本榎出張所となる。



高輪消防署 開署 80周年!!

地域の防火・防災に日ごろから大きな役割を果たしている高輪消防署が、開署80周年を迎える。11月2日には、二本榎出張所前で、開署80周年記念祭が開催された。

1945 (昭和20) 年から1964 (昭和39) 年まで配置されていた、国産第1号のポンプ車 (現在は四谷の消防博物館に展示) が半世紀ぶりに二本榎出張所に里帰り、展示されている。



船尾ともいわれた1975 (昭和50) 年頃の高輪警察署 警視庁ホームページより引用

2 高輪台小学校 高輪2-8-24

1935 (昭和10) 年竣工 鉄筋コンクリート造3階建て
設計 鈴木 忠雄 (東京市土木局建築課)
東京都選定歴史的建造物

装飾がなく窓が大きく日本のモダニズム、インターナショナルスタイルの先駆的建築。できた当時、品川の沖を通る大きな外国船のように美しいというので「陸の白い巨船」と言われた。全教室にラジオ・校内放送の設備やスチーム暖房の設備が整い、東洋一の小学校と讃えられた。

1945 (昭和20) 年空爆を避けるために、校舎は紺と白の迷彩色に塗り替えられた。2005 (平成17) 年、歴史的建造物である外観を生かしつつ、耐震補強をし、地下に体育館を増築するなど大規模な改修工事が行われた。



開校当時の高輪台小学校 遠くに海が見える



開校当時からある階段のデザイン



現在の外観



戦争中は迷彩色に塗られた

3 虎屋 (現在休業中) 高輪1-20-8

竣工は1927 (昭和2) 年頃で (1955年改築) 構造は3階建て自家設計である。昭和初期、銀行として建設された鉄筋コンクリート造り平屋建ての建物をのちに虎屋が買い取り、店舗にした。それまで虎屋は地続きの出桁造りの町屋で営業していた。もとの建築の躯体を利用するかたちで、先代主人の自家設計により現在のデザインに改築した。角地に合わせて隅切りをした平面、存在感のある正面、テラゾー張りの外壁、銅版の庇など城壁風の外観、店全体の賑やかなデザイン、風情のある煙突、懐かしい雰囲気あふれるレトロな趣ある店舗である。建物内部も堅牢で凝った造りになっている。



天神坂上、出桁造り旧店舗 (戦前)



旧銀行跡の虎屋製造工場 (戦前)
左 虎屋店舗、右端「桃太郎」の絵が子どもに人気があった



モダンな初代店主 (1937年 昭和12年頃)



重厚な店構えの虎屋 (現在休業中)



港区立港郷土資料館提供 (「港区の歴史的建造物」より)

4 八芳園 白金台1-1-1

1万坪に及ぶ広大な敷地に位置する八芳園は、江戸時代初期、天下のご意見番で知られる大久保彦左衛門の屋敷があった。彦左衛門没後、鹿兒島藩島津家の抱屋敷となった場所で、明治に入り実業家渋沢喜作の邸宅が建てられた。1915 (大正4) 年、久原房之助 (日立製作所創設等で知られる) がこの土地、建物を渋沢氏から購入し、敷地を拡大、日本庭園を築くなどし、現在の八芳園の建築、庭園の基調となっている。



壺中庵外観



正門 (せいもん)

明治の初めに造られた長屋門で入母屋造椽瓦葺 (いりもやづくりさんかわらぶき)、当初は茅葺屋根だったが、震災にあい瓦屋根になった。



夢庵 (むあん)

明治時代、横浜の生糸貿易商・田中平八が建てた茶室を移築した木造平屋建。寄棟造椽瓦葺 (よせむねづくりさんかわらぶき) 屋根の広間の両翼に寄棟造椽皮葺 (よせむねづくりひわだぶき) の待合と入母屋造椽皮葺 (いりもやづくりひわだぶき) の小間がある。



蘭の間



蘭の間の一角に残る、日本に亡命中の孫文がいざというときに使うために造られたと云われる通路

壺中庵 (こちゅうあん)

久原氏の私邸として使われていた木造2階建、1916 (大正5) 年に増築された「蘭の間」では柱などに「ムロ」の木がふんだんに使われ、当時の面影がそのまま残されている。



霞峰庵 (かほうあん)

久原氏の玉川別邸の茶室を移築したもので、木造平屋建、入母屋造椽瓦葺 (いりもやづくりさんかわらぶき) である。



30年位前に港で作業していた頃の折原さん

暮らしプレイバック

お話を伺った人 折原 榮一さん

白金1、3丁目辺りの戦前から戦後の街の移り変わり

お父さんの代から白金で工場を営んでいる折原榮一さん（82才）から、戦前、戦中、戦後の白金1、3丁目の街の移り変わりのお話をうかがいました。

■戦前の頃

白金の町工場が一番栄えていたのは、戦前でした。工場の数も多く、職人さんも大勢いたので、商店街も賑わっていました。その頃、私の姉が福引きで1等になり桐タンスが当たったことがありました。当時とすれば、すごい景品でした。白金に演芸館があり、落語、講談、浪曲、手品など面白い演芸を見せていましたが、ある時、著名なボクサーの「ピストン堀口」がきて、ボクシングの試合をしたこともありました。

■大戦中の頃

町工場も大戦中は軍需産業に従事していました。1945（昭和20）年5月25日の山の手大空襲の時、私は14才で母と姉で高輪警察署の近くに避難していましたが、帰ってきて見ると白金1、3丁目辺りはほとんど焼け野原となり、家も工場

も失いました。運悪く、雇っていた2人の職工さんは明治通りの四之橋あたりを歩いていて、焼夷弾が直撃し亡くなってしまいました。2人の遺体の処置についてどうしたらよいか、警察に相談し、考えた末焼け跡にある木材を組んで、遺体に乗せ茶毘に付すことにしました。茶毘に付すのに、1日かかりました。4、5日たってから郷里の親御さんが遺骨を引き取りにきました。

家は焼けてしまいましたが、タイル貼りだった風呂だけが焼け残っていました。水を入れたら釜は健在で湯を沸せることがわかり、地域のみなさんが代わるがわる風呂に入ることで、ありがたかったです。近所の床屋の河村さんが、ぼろぼろの椅子を一脚見つけてきて、その椅子に座り野外で散髪してくれました。四方何もない青空の下で、散髪したのは今でも記憶に残る貴重な体験でした。大戦中はほんとうに食糧難で、みなさん、ひもじい思いをしました。子どもたちが障子を貼る糊をなめて怒られたこともありました。

■戦後のこと、あれこれ

1946（昭和21）年に、今の工場と家を建てました。当時としては、いい材料を使うことができ、建物は今でも健在です。戦後すぐは、仕事が多かったのですが、1950（昭和25）年頃から景気がよくなり周りに町工場も増えてきました。私



は、1953（昭和28）年に父から工場の経営を引き継ぎました。工場は船や鉄道などの電気関係の部品を製造しており、鹿島港、呉港、名古屋港などに停泊している船の中に出張し、作業をすることがありました。

30年位前の話ですが、船では昼間は積荷を下ろすため夕方からしか作業ができず、翌朝の出港までに間に合わせるために徹夜で作業したこともありました。ある時、外国船の船長から作業のお礼として高級ブランドをいただきました。しかし、このブランドは税関員に見つけられてしまい、「持ち出すと密輸になるので一度としないように」と説諭され始末書を書かされ、なんとか家に持ち帰ったこともありました。

この辺りは最近まで工場は結構残っていましたが、白金の再開発の後から急に少なくなりました。私の工場は今でも営業していますが、跡継ぎがいないのでそろそろ引き時と考えています。

（担当／安藤、渡邊、河村）

チーズバスケットのサラダとシシリアン・ドレッシング



●ご本人のコメント

チーズで作ったバスケットの香ばしさとパリパリ感。はちみつ入りドレッシングの甘ピリ感がポイント。サラダは葉物をメインにお好みでどうぞ。このチーズのパリパリはチーズフォンデュの最後にお鍋の底に残ったあのお焦げのチーズと同じ。癖になります。

●作り方

1. パルメザン・チーズをすり下ろす。
2. テフロンのフライパン（クレーパン）を温め、1/4のチーズをフライパンの全体に丸く円を描くように、満遍なくひく。
3. チーズの周りが焦げてきたら、チーズが破れないように、ヘラを使って、フライパンの縁からゆっくり剥がす。
4. バスケットになるような器を逆さにする。（フライパンのサイズに合わせて、器を用意します）
5. 器の上から、焦げた面が外側になるようにチーズをかぶせ、冷めて固まるのを待つ。チーズが固まったら、バスケットをそっと器から外す。
6. ボールに、ドレッシングの材料（オリーブ・オイル、はちみつ、レモン汁、コショウ、塩）を入れ、よく混ぜてドレッシングを作り、レッド・オニオンのみじん切りを加える。
7. トマトは種をとって1cm角に切り、ミックス・サラダと混ぜ、チーズ・バスケットに盛る。その上からドレッシングをかける。



読者 S.M. さん（白金在住） の おすすめ料理

●材料（4人分）

パルメザン・チーズ.....250g
ミックス・サラダ.....200g
トマト.....2個
レッド・オニオン.....1/2個

シシリアン・ドレッシング

オリーブ・オイル.....100cc
はちみつ.....10cc
レモン.....1個
塩、こしょう

♥ワンポイント・アドバイス

★食べる1時間以上前に作ると、チーズのパリパリ感がなくなりますので、あまり早く作り過ぎないように。

募集して
います!

あなたの自慢の料理（レシピ）や 自慢のペット（2ページ掲載）を紹介してみませんか？

①記事（原稿）、②写真（プリント[L判]またはCD-R）、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥FAX番号、⑦メールアドレスを書いて下記あて先に送付してください。
※掲載をお約束するものではありません。※応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

●あて先・問い合わせ先：高輪地区総合支所協働推進課「地域情報紙担当」〒108-8581 港区高輪1-16-25 TEL 03-5421-7123



高輪地区を彩るすばらしい人材をご紹介します。仕事のこと、趣味のこと、地域のボランティア、誰にも真似のできない特技…テーマは問いません。

私の知っているあの人のこんな活動を知ってほしい、こんな面を紹介したい、という心当たりのある方、ぜひご一報ください。もちろん自薦も大歓迎！あなたの情報を待っています。

「小鼓」と「書」を友に わが道を行く

森 大作さん (三田5丁目在住)

森大作さんは今年92歳。東京・赤坂生まれの江戸っ子で、中学時代、校友会の謡曲部に入って小鼓と出会いました。たちまち小鼓の魅力のとりことなった森さんは、甲斐林家先生との出会いを得て小鼓の猛稽古を重ね、普通25年かかる行程をたった8年間で習得してしまっただほど、その腕前は突出していました。高校・大学時代も小鼓一筋に精進を重ねました。

しかし戦争で小鼓の稽古も中断。1946年体重わずか38キロの状態佐世保に復員し、復学しました。その後日本空港ビルディング株式会社に職を得、要職を重ねる中、小鼓の稽古も黙々と続けてきました。小鼓歴は既に80年になります。しかし種々のいきさつからプロの道を断念。以後アマチュアに徹し、現在は東京芸術大学の教授について研鑽を重ねる一方、指導者として小学生から社会人まで教えるなど、日本の古典芸能の普及発展に力を注いでいます。

一方、書に目を転じると、その成果も輝かしいものです。森さんの書道家としての名前は「森素碩(そせき)」。小学4年の頃には選ばれて大講堂で「席書」(公衆の面前で書をあらわすこと)を披露したほど、その能筆ぶりは有名でした。戦争での中断を経て1960年代に書道を再開し、師範の資格を得たのは1968年でした。



小鼓の個人指導風景



森 さん

森さんの作品は国内外で数多く受賞しており、2011年タイ王国より現代書道家を代表する1人として褒賞を受け、世界芸術文化交流会のイタリア支局からは「ジョルジョ・ヴァザーリ」賞を受賞しました。また、エジプトのカイロ市内に竣工したオベリスクには、世界各国を代表する芸術家のひとりとして、その名が刻まれているとのことです。

このページに掲げた『斗南一人』(となんいちにん)とは「北斗星の南にいたただひとりの人。天下第一の人の意味。小鼓と書を両輪として『斗南一人』を指す森さんです。

歌と朗読でお年寄りや 子どもたちを元気にする

久津 弘子さん (高輪1丁目在住)

歌や朗読のボランティアで大活躍の久津弘子さん(68歳)。現役の頃は文字通り仕事人間で、地域との繋がりはまったくなかったそうです。

「ひと区切りを考えた時、港区のチャレンジコミュニケーション大学を知り、通っているうちに、新しい人間関係が生まれました。卒業後、有志で『みなトーク会』を結成した時、事務局を引き受け、現在50人のメンバーのとりまとめをしています。会員同士の交流だけではなく、仲間ボランティア活動ができないかと、介護施設『洛和ヴィラ南麻布』を訪ねたのが3年前でした。以来、『歌のボランティア』として毎月、10人ほどで伺い、利用者さんと一緒に、小学唱歌や歌謡曲を歌っています。利用者さんと年齢が近いので、古い時代の歌を知っているのが若いスタッフと違うところですよ」と久津さん。

認知症が進んだ方でも、なつかしい歌が流れると一緒に大声で歌い、歌詞カードを見て2番、3番まで歌われるので、家族の方もびっくりされるそうです。



洛和ヴィラ南麻布での歌のボランティアの様子

「歌の力はすごいと思います。利用者さんたちが、1時間大きな声で歌い終わったあと、『おかげで今晩よく眠れました』といったくださると、こちらも元気が出ます」グループとしての活動の場は広がり、この他に、南



高輪子ども中高生プラザの絵本の読みきかせ

麻布高齢者在宅サービスセンター、デイサービスセンター『友の里三田』等へ訪問しています。これまでに75回活動し、延べ2200人を越える利用者さんと歌いました。

久津さんは図書館の朗読ボランティアとして活動するほか、みなトーク会を中心に地域の仲間たちと『ことばつむぎ』というグループをつくり、『高輪子ども中高生プラザ』で月1回子どもたちに絵本の読み聞かせもしています。「子どもたちの笑顔をみると、絵本の魅力をもっともつと伝えたいと思いますね。『ことばつむぎ』の仲間と年1回、朗読の発表会を行っています。私たちの年齢ならではの、味のある楽しい舞台ですよ」

久津さんのバイタリティは、広告会社でのプロデューサーとしての経験に加えて、若い頃携わった演劇や、永年続けてきた大蔵流狂言で培われたのかもしれない。すっかり高輪の人になった久津さんは、地域で元気を振りまいています。

区からのお知らせ

たかなわフェスティバル

白金高輪 グリーンミュージック フェスティバル

地域の様々な世代の人たちが集まりふれあい、一緒に音楽を楽しむコンサートです。キャッチコピーは、「輪音 ～奏でよう！地域のハーモニー！～」

高輪コミュニティ広場

楽しく交流を深められる「コミュニティ・サロン」を開催します。

地域情報紙 みなとつづ編集室

子ども記者が活動します。詳細は、下欄をご覧ください。

高輪地域に住む、働く、学ぶ、活動する方々が中心の「たかなわフェスティバル」を開催します

開催日時

平成26年2月22日(土)
午前10時～午後4時(予定)

開催場所

高輪コミュニティべらざ
(港区高輪 1-16-25)

そのほかにも大人から子どもまで楽しめる楽しいゲームやイベントを行います!

高輪地区 地域の魅力いっぱい写真展

町会・自治会、商店会、企業、学校などの地域のお祭りやイベントの活気あふれる写真や、みなさんの笑顔あふれる写真を展示します。

高輪地区歴史・文化資産の デジタルアーカイブ

区民参画により収集した「高輪地区の今と昔」の写真を展示し、懐かしさのある空間を創出します。

※ 詳細は今後、広報みなとや区ホームページなどでお知らせします。

問合せ：高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当
TEL：03-5421-7123

子ども記者を募集します!

平成26年2月22日(土)に開催予定の「たかなわフェスティバル」当日に、「地域情報紙 みなとつづ編集室」が開設されます。日ごろ、みなとつづの企画編集に参加している編集メンバーの皆さんのサポートのもと、子ども記者が活動します。

子ども記者の活動内容

子ども記者と編集メンバーの皆さんでグループを作り、編集メンバーのサポートのもと、フェスティバルの様子を取材(インタビューや写真撮影)し、記事(原稿)を作成してもらいます。子ども記者が作成した記事は、地域情報紙みなとつづ23号(3月発行予定)に掲載する予定です。

- 対象 高輪地区の子どもたち(概ね15歳まで)
- 募集人数 6人程度(小学生以下の場合は保護者の付き添いが必要です)
- 申込方法 以下の必要事項を記載の上、FAXまたはハガキ(郵送)でお申込みください。なお、応募者多数の場合は、抽選にて参加者を決定いたします。
【記載事項】・参加者氏名・年齢・学年・付き添い保護者氏名(小学生以下の場合)・住所・電話番号(日中連絡が取れる連絡先)
※「子ども記者参加希望」と明記してください。
- 募集期間 12月12日(木)まで(郵送の場合は消印有効)
参加の可否については、1月上旬に郵送にて連絡いたします。
- 応募・問合せ 港区高輪地区総合支所 協働推進課地区政策担当
〒108-8581 港区高輪 1-16-25
TEL:03-5421-7123 FAX:03-5421-7626

わが町の青少年委員・スポーツ推進委員をご存じですか?

青少年委員・スポーツ推進委員は、教育委員会が委嘱している非常勤の公務員で、中学校区ごとに活動しています。

青少年委員は、青少年対策地区委員会事業「みなとキャンプ村」や地域での行事等をはじめ、地域における青少年健全育成の中心的役割を担っています。また、地域と行政とのパイプ役として様々な活動を行っています。

スポーツ推進委員は、地域の身近な施設を利用して「地域スポーツ教室」を年間8回程度実施しています。参加費無料の体験型スポーツ教室です。また、総合型地域スポーツ・文化クラブ(スポーカル高松)の運営支援等も行っています。活動の詳細については、港区ホームページをご覧ください。どうか、下記までお問合せください。



青少年委員とスポーツ推進委員との交流会の様子

●お問い合わせ

青少年委員について

▶生涯学習推進課生涯学習係 電話：03-3578-2743

スポーツ推進委員について

▶生涯学習推進課スポーツ振興係 電話：03-3578-2747

御田小地区防災協議会・白金小地域防災会主催による宿泊訓練が行われました

災害時に避難所運営をスムーズに行えるよう、御田小地区防災協議会、白金小地域防災会が、それぞれの地域の区民避難所となる小学校体育館を使って、宿泊訓練を実施しました。

御田小地区は、8月24日(土)夕方から25日(日)朝にかけて、御田小学校で実施しました。発災から避難所開設までの手順を確認し、投光器の明るさの確認や、夜間の炊き出し訓練、暗闇の中での動線確保のシミュレーション等を行いました。また、夏季の実施ということもあり、窓を開けて風を入れるなど熱中症予防に配慮しました。

白金小地域は、9月28日(土)夕方から29日(日)朝にかけて、白金小学校で実施しました。訓練当日は、せんば東京高輪病院の看護師の参加があり、東日本大震災、被災地支援の実体験に基づく講話な



御田小宿泊訓練の様子

ど、避難所運営の課題を中心に防災勉強会を実施しました。

宿泊訓練はどちらの協議会も初の試みであったこともあり、訓練参加者からは、「貴重な体験になった。」「昼の訓練とは勝手が違った。」という意見が聞かれ、あらためて『体験』の重要性が実感できたようです。



白金小宿泊訓練(勉強会)の様子

編集だより

▼小鼓と書に、真剣に取り組んでおられる希少な存在の森さん、まさに「世に隠れたる名人あり」の言葉そのものです。(明石)

▼いつも、取材すると新しいことを学んだり、面白い発見があったりしてワクワクします。このワクワク感をうまくお読みにする方に伝えられたらと願っています。(安藤)

▼毎号、色々のテーマでこの地区のことを調べていくと、実にたくさんの顔を持っていることに驚かされています。(伊関)

▼大きなイベントだけではなく、日常の生活の中で国の垣根を越えた友情を育んでいることは素直に素晴らしいことです。どんどん国際交流の輪が広がっていくと良いですね。(内村)

▼編集への参加も2回目です。高輪地区へ移り住んで8年になりますが、まだまだ知らないことばかりです。今回も新たな発見の連続でした。(梶)

▼昭和20年5月の山の手大空襲後に大久保通り・志田町でいち早く青空床屋を開業したのは、我が祖父・河村安太郎でした。(河村)

▼今回は、白金北里通り商店会会長のいきいきとしたお話からいっぱい元気をいただきました。(菅野)

▼久津さんの巧みな話術にリードされ、お年寄りの皆さんもボランティアの方もとても楽しそう、多岐でした。高輪地区には、元氣いっぱいシニアが多々、心強いですね。(滝川)

▼記事を書く一つ作るにも、様々な意見があり、出来上がるまではとても心配になります。出来上がった満足するところもありますが、自己満足にならないようにしたいと思っています。(松島)

▼二本榎の始まる角に、子どもの頃から見続けていた「虎屋」の店構え、なにか特別な時に出てきた「どらやき」や「もなか」のおやつが楽しかった。再び街の中に蘇ってほしいと懐かしく思っています。(三村)

▼キッザニアまで出かけてなくても、地元の商店街で職業体験できるなんて白金北里通り商店会さんのイベントは、お子様がいらつしやるご家庭には嬉しいですね。目からウロコのアイデアだと思いました。(森)

▼7年後の東京五輪。その時、この街はどんな変貌をとけているでしょうか?そして、この「みなとつづ」はどんなに成長しているか、楽しみです。(谷知)

▼現代に脈々と受け継がれる歴史的建造物、当時の優れた素材と技術を大切に守り後世に伝えることの重要性を実感しました。(吉田)

▼私が工場を始めて暫くしてからの事、折原さんの仕事を若干お手伝いした事があるのです。折原さんの益々の発展を祈って居ります。(渡邊)

区民編集メンバー

- 安藤洋一(チーフ) 梶昌夫 森裕子
- 谷知貞江(サブチーフ) 河村保弘 安勢津子
- 吉田由紀子(サブチーフ) 菅野真美 渡邊義信
- 明石美穂子 滝川まりえ
- 伊関則子 松島佐紀子
- 内村琴美 三村晴子

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085